

当科では下記の疫学研究を実施しています

「IgA 腎症における予後と予後規定因子等の検討」

【研究の意義】

IgA 腎症はわが国で最も多い慢性腎炎です。腎臓に IgA という物質が沈着することを特徴とします。IgA 腎症の約 40%は 20 年以内に末期腎不全に至るとされています。プレドニゾロン+ミゾリビン/アザチオプリン+ワーファリン+ジピリダモールによるカクテル治療、プレドニゾロン治療、アンジオテンシン変換酵素阻害薬などの治療により経過は改善していると考えられます。しかしながらこれまでのところ、これらの治療導入後の IgA 腎症の予後およびその規定因子の精密な解析はされておらず不明です。

本研究では、それらを明らかにすることにより、よりよい治療法開発のための情報を得ることができ、患者様とそこそご家族の利益に貢献すると予測されます。

【研究の目的】

本研究では、IgA 腎症における予後と予後規定因子等を明らかにします。

【研究の方法】

既にある診療録等を調べ、IgA 腎症における予後と予後規定因子等を明らかにします。個人情報保護は保護されます。本研究につき、患者様への直接の問い合わせはありません。本研究への参加を拒否される場合はお手数ですが主治医にご連絡ください。

<対象>

1975 年から 2025 年 4 月までの間に IgA 腎症と診断された方。

【研究機関名】

和歌山県立医科大学小児科

【本研究に関する問い合わせ先】

研究代表者：島友子

連絡先：〒641-8509 和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学小児科

TEL : 073-447-2300

FAX : 073-444-9055